

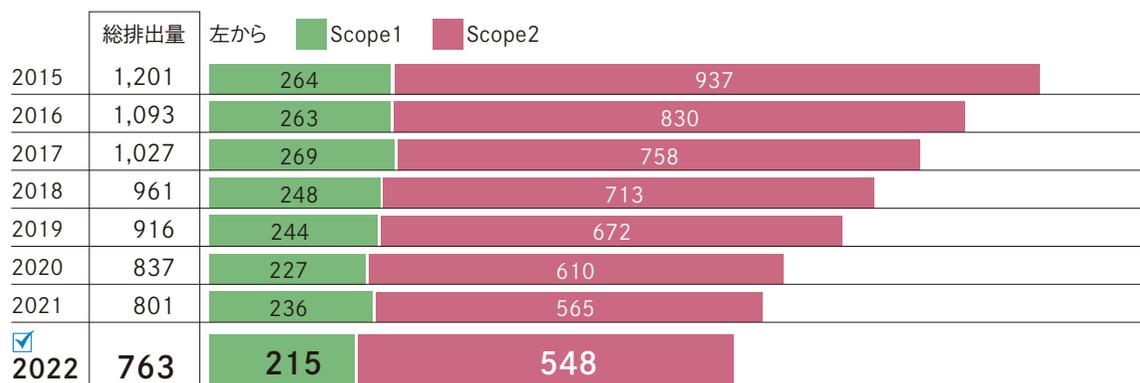
環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

GHG排出量の削減

DNPは、脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、エネルギー起源のCO₂排出量削減(省エネルギー)、CO₂排出量が少ないエネルギーへの転換、再生可能エネルギーの導入を行っています。また、付加価値が高く環境負荷の低い事業ポートフォリオへの転換をめざしています。

● GHG排出量

Scope 1・2 GHG排出量 2022年度実績:763[千トン-CO₂]



GHG排出量 (単位: 千トン-CO₂) 国内での電気の使用、燃料の使用・燃焼、廃棄物の焼却、HFC・PFC・SF₆・NF₃の大气放出により排出されるGHGを「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver4.8 (令和4年1月)」に基づき算定しました(GHG排出量が極めて少ない一部の排出源は除外)。2022年度の電気の排出係数については、電気事業者別排出係数(令和3年度実績)公表に基づき、製造サイトでは電力会社ごとの排出係数を使用、オフィス・書店グループでは共通係数を使用しました。また海外ではGHG Protocolに基づいた、国別の排出係数を使用しました。(2015～2021年度においても、国内分は集計年度の前年度の同様の係数を使用しています。)

※ グループ企業の輸送にともなうScope 1排出量はScope 3として集計しています。

● 再生可能エネルギーの導入

太陽光発電設備の設置状況

設置年	設置場所	システム容量
2009	DNP高機能マテリアル 泉崎工場	30kW
2011	DNP市谷加賀町第2ビル	30kW
	DNPテクノパック田辺工場	30kW
	DNP市谷田町ビル	10kW
	つくば研究施設	11kW
2015	DNP市谷加賀町ビル	36kW
	DNP市谷鷹匠町ビル	24kW
	狭山工場	6kW
2020	柏研究施設	600kW

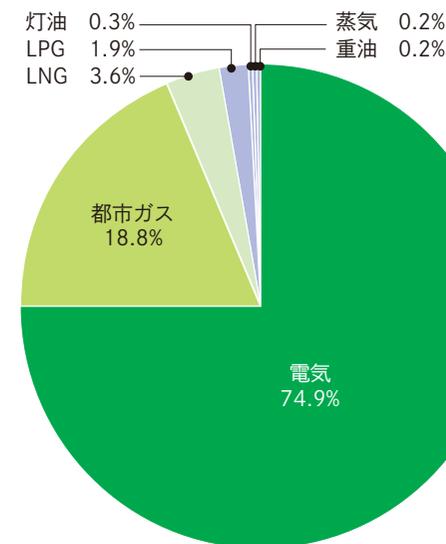
2022年度の再生可能エネルギーの発電量および購入量は合計で2,994千kWhでした。(年間1,800千kWhのグリーン電力証書を購入しており、グループ内の製造(印刷、製本、加工)工程等で必要な電力の一部をまかっています。)
2023年度は、DNPテクノパック京田辺工場やDNPインドネシアカラワン工場等においてオンサイトPPAでの導入を、また北海道コカ・コーラプロダクツ札幌工場においてオフサイトPPAでの導入を予定しています。

● 国内の種類別GHG排出量

単位:トン-CO₂

種類	排出量
総排出量	664,300
エネルギー起源	641,120
非エネルギー起源	20,000
メタン	350
一酸化二窒素	470
ハイドロフルオロカーボン類 (HFC)	2,350
パーフルオロカーボン類 (PFC)	10
六フッ化硫黄 (SF ₆)	0
三フッ化窒素 (NF ₃)	0

● 国内の燃料構成割合



※ 上記以外に車両用としてガソリンおよび軽油の使用があります。(0.1%未満)

環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

GHG排出量の削減

● 輸送に関する対策

輸送時の環境負荷の低減として、積載率の向上、配車や輸送ルート
の適正化、デジタルタコメーター導入による効率化、アイドリングストップ、
鉄道輸送へのモーダルシフト、ハイブリッドカーの導入などを進めています。

国内製造拠点 2022年度実績

荷主輸送量 275[百万トンキロ]

輸送用燃料使用量 15,710[kℓ](原油換算)

CO₂排出量 41,470[トン]

輸送用燃料使用量原単位(輸送用燃料使用量/売上高)

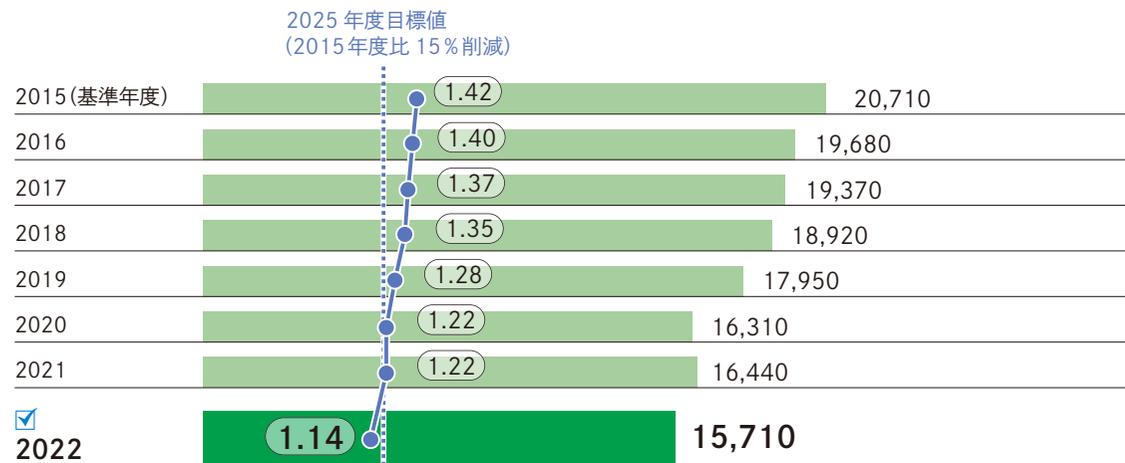
1.14[kℓ/億円]

2015年度比 19.0%削減

● オフィスでの対策

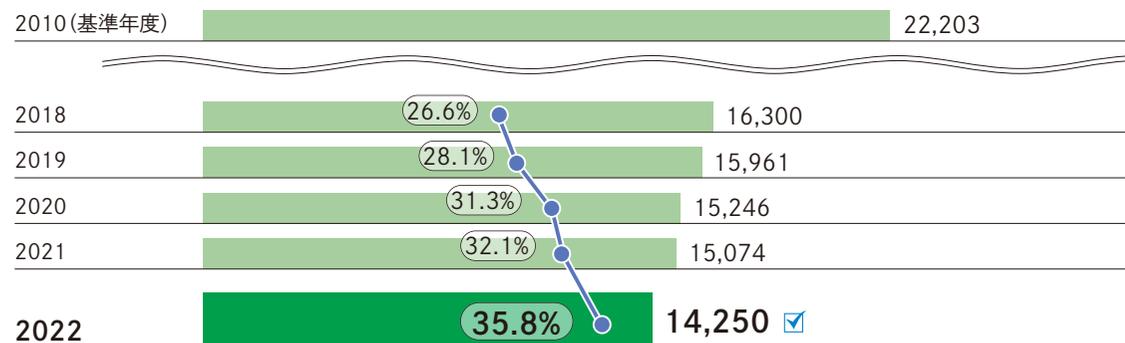
2005年度からオフィスでのCO₂削減活動にも取り組んでおり、全国
のオフィスを対象に電力使用量の2010年度比20%削減を目標に掲げ
ています。照明台数・照度の抜本的見直し、空調運用方法の見直し、LED
照明の拡大等を実施しています。

輸送用燃料使用量(単位:原油換算 kℓ) 棒グラフ / 輸送用燃料使用量売上高原単位(単位:kℓ/億円) 折れ線グラフ



※ 国内の荷主輸送にともなう量。

主要オフィスの電力使用量※(単位:千 kWh) 棒グラフ / 2010年度比削減率 折れ線グラフ



※ 2010~2022年度の間、継続的に営業を行っている国内主要オフィス31箇所

》 環境目標と実績、環境負荷実態 》 SDGsの達成に貢献するビジネス 》 **脱炭素社会の実現に向けて** 》 循環型社会の実現に向けて 》 環境汚染物質の削減に向けて 》 自然共生社会の実現に向けて

環境マネジメント活動－脱炭素社会の実現に向けて

サプライチェーン排出量

DNPにおけるサプライチェーン排出量のうち、原材料調達段階 (Scope3 カテゴリ1) の排出量が全体の約半分を占めています。

サプライチェーン排出量削減に向けて、サプライヤー説明会やアンケート、直接の面談等により、取り組み等を共有、協議することで、サプライヤーの皆様と協力して推進しています。

単位:千トン-CO₂

	2020年度	2021年度	2022年度
Scope 1 排出量	227	236	215
Scope 2 排出量	610	565	548
Scope 3 排出量	4,260	4,240	4,370
サプライチェーン排出量	5,100	5,040	5,130

Scope 3 排出量内訳

カテゴリ	2020年度	2021年度	2022年度
カテゴリ 1 購入した製品・サービス	2,720	2,700	2,750
カテゴリ 2 資本財	150	92	160
カテゴリ 3 Scope 1・2に含まれない燃料およびエネルギー活動	130	140	130
カテゴリ 4 輸送、配送(上流)	150	180	170
カテゴリ 5 事業から出る廃棄物	61	29	27
カテゴリ 6 出張	4	4	8
カテゴリ 7 雇用者の通勤	15	17	24
カテゴリ 8 リース資産(上流)	-	-	-
カテゴリ 9 輸送、配送(下流)	570	620	620
カテゴリ 10 販売した製品の加工	-	-	-
カテゴリ 11 販売した製品の使用	7	11	12
カテゴリ 12 販売した製品の廃棄	450	450	460
カテゴリ 13 リース資産(下流)	-	-	-
カテゴリ 14 フランチャイズ	-	-	-
カテゴリ 15 投資	6	6	4

【算定方法】

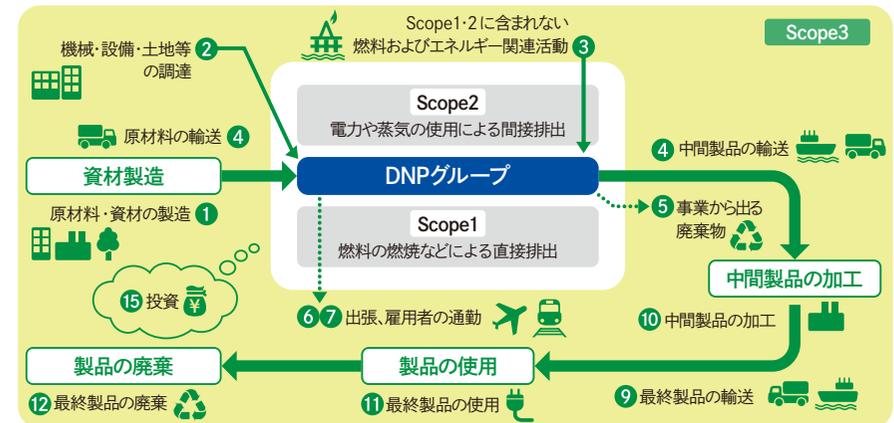
環境省・経済産業省が定めたGHG排出量の算定方法に関するガイドライン「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインVer3.3」に準拠し算定。

- ・グループ企業の輸送にともなうScope 1 排出量はカテゴリ4に含める
- ・カテゴリ8はScope 1・2に含める。カテゴリ10は最終製品の構成割合が微小なため、算定除外。
- ・カテゴリ11は国内のPETボトル飲料由来の排出量のみを算定
- ・カテゴリ13・14は非該当

2021年度より、IDEAの原単位を使用して算定。(2022年度は「IDEA Ver.3.3」)

【算定範囲】

主要国内拠点(北海道コカ・コーラプロダクツおよび書店グループ等は除く)および海外主要サイト(PT DNP Indonesia, DNP Imagingcomm America Corporation, DNP Imagingcomm Asia Sdn.Bhd.)



● サプライチェーン排出量

